

活動実績報告書

平成26年4月18日

登録番号 20130618

氏名 柘植 賢二

1. 活動状況

平成22年4月 ～ 平成26年3月

①活動の概要

森林組合や民間事業者(以下「林業事業者」)の現場技能者等に対して行った、森林作業道や作業システムに関する現地指導、集合研修

②当該活動を挙げた理由

人工林資源が利用期を迎え、国産材への期待が高まっている。また、森林の公益的機能を維持・向上させつつ、こうした社会的要請に応えるため、搬出間伐の推進が求められている。そのためには現場技術力の向上を図ることが不可欠であり、それがひいては林業事業者の経営改善や地域の木材供給体制の安定化につながると期待される。

こうした中、①で挙げた現場技能者等に対して行った現地指導等の活動は、現場技術力の向上を支援するものであり、森林総合監理士としての活動に深く関連すると考えられることから、本報告の題材とした。

③当該活動における立場と役割

(立場)

○県森林総合研究所に所属する林業機械や路網を専門とする林業普及指導員。

(役割)

○関連する集合研修の企画・運営を行うとともに、講師として最新の技術や機械の普及活動及び現地指導等を実施。

○専門分野を中心に出先事務所所属の林業普及指導員を補助し、林業事業者による森林経営計画の作成等を支援。

④活動上発生した問題点と課題及びそれへの具体的対応策

(課題1)

昨今、全国的に取組が進められている森林作業道について、適切な作設技術を有したオペレーターの数十分とは言えない状況にあり、育成する必要があった。

(対応策1)

国の「森林作業道作設オペレーター育成事業」等を活用し、オペレーター育成を支援した。また、現地で路線選定等の指導を行い、壊れにくい道づくりの普及を図った。

(課題2)

森林施業計画はブドウの房状となっている箇所が多いなど、施業集約化が思うように進んでおらず、民有林の多くが路網を面的に整備するまでに至っていなかった。

(対応策2)

森林経営計画の作成を支援するため、地元説明会に参加し、路網整備や搬出方法等について森林所有者に説明した。

(課題3)

すでに一定以上の搬出間伐を行っている林業事業体においても、更なる労働生産性の改善が求められていた。

(対応策3)

国の「作業システム導入支援事業」に申請するよう助言し、最新機械の導入により作業の効率化を検討するよう指導したところ、平成23、24年度の2ヶ年で3社が申請するに至り、全て事業採択された。

⑤活動による成果で残された課題及び今後の改善方策

- 作業の効率化によるコスト削減にも限界があるので、逆に収入を増やす方策(造材技術の向上、新たな販路の拡大等)についても指導が必要だったと考える。
- 最新機械を導入することで労働生産性が改善されても、採算性の向上にはつながらない場合も多く、指導方法の改善を要すると考える。

2. 研修の受講状況

研修名 准フォレスターブロック研修 平成24年7月、9月
(実施主体)

研修名 准フォレスター通信研修 平成24年11月
(実施主体)

研修名 准フォレスター集合研修 平成25年1月
(実施主体)

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

(各種研修の企画、運営)

- 森林作業道作設オペレーター初級研修及びフォローアップ研修
平成22年4月～平成26年3月
- 森林作業道作設オペレーター育成のための現地検討会
平成24年4月～平成26年3月

(各種研修への指導者、講師としての参加)

- 「緑の雇用」技能者育成事業におけるフォレストワーカー研修
平成23年4月～平成26年3月
- 県森林総合研究所主催の各種研修(林業機械、森林作業道等)
平成23年4月～平成26年3月

(森林総合監理士としての活動等の雑誌、広報誌等への投稿)

- 「林業新知識」平成25年5月号

(森林総合監理士としての活動等の研究会、シンポジウム等での発表)

- 林業普及指導員関東・山梨ブロックシンポジウム 平成25年9月
- 関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会 平成26年2月